

本書の特徴

1 明治元年〜昭和20年までに発行された中央紙、地方紙、海外邦字新聞のほとんどすべてを渉猟し、約1万5千件の怪異妖怪記事を抽出。原資料として影印して6冊に収録。第一級資料として、研究者に供するようにした。

2 記事は時系列に整頓し、データ(日付・新聞名)は活字に起こし直して小見出しにした。さらに番号を付けることにより、必要な記事の検索をしやすくした。

3 多岐にわたる内容を分類のうえ、小見出しにマークを記載、一目で記事種類を判別できるようにした。また、利用者の研究テーマにアプローチしやすいよう、内容が分かる一覧を付けた。

4 全6巻の総索引CD-ROMを最終巻に収録。このCD-ROMは全巻の「掲載記事内容一覧」で構成。



民俗学・歴史・風俗・社会学・文学の第一級資料!!

怪異妖怪記事資料集成 全6巻 体裁・造本●A4 判変型・上製クロス装・ボール函入り

- 明治期 怪異妖怪記事資料集成 全1巻**
 定価◆本体45,000円+税
 ISBN 978-4-336-05041-0 (1354頁)
- 大正期 怪異妖怪記事資料集成 上・下巻**
 定価◆本体 各45,000円+税
 (上巻) ISBN 978-4-336-05812-6 (1229頁)
 (下巻) ISBN 978-4-336-05813-3 (1237頁)
- 昭和戦前期 怪異妖怪記事資料集成 上・中・下巻**
 定価◆(上・中巻) 本体 各50,000円+税
 (下巻) 本体 55,000円+税
 (上巻) ISBN978-4-336-06004-4 (1472頁)
 (中巻) ISBN978-4-336-06005-1 (1463頁)
 (下巻) ISBN978-4-336-06075-4 (1300頁)

発行 国書刊行会
 〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15
 TEL : 03-5970-7421
 FAX : 03-5970-7427
 e-mail : info@kokusho.co.jp
 http://www.kokusho.co.jp

お取り扱い書店

怪異妖怪記事資料集成

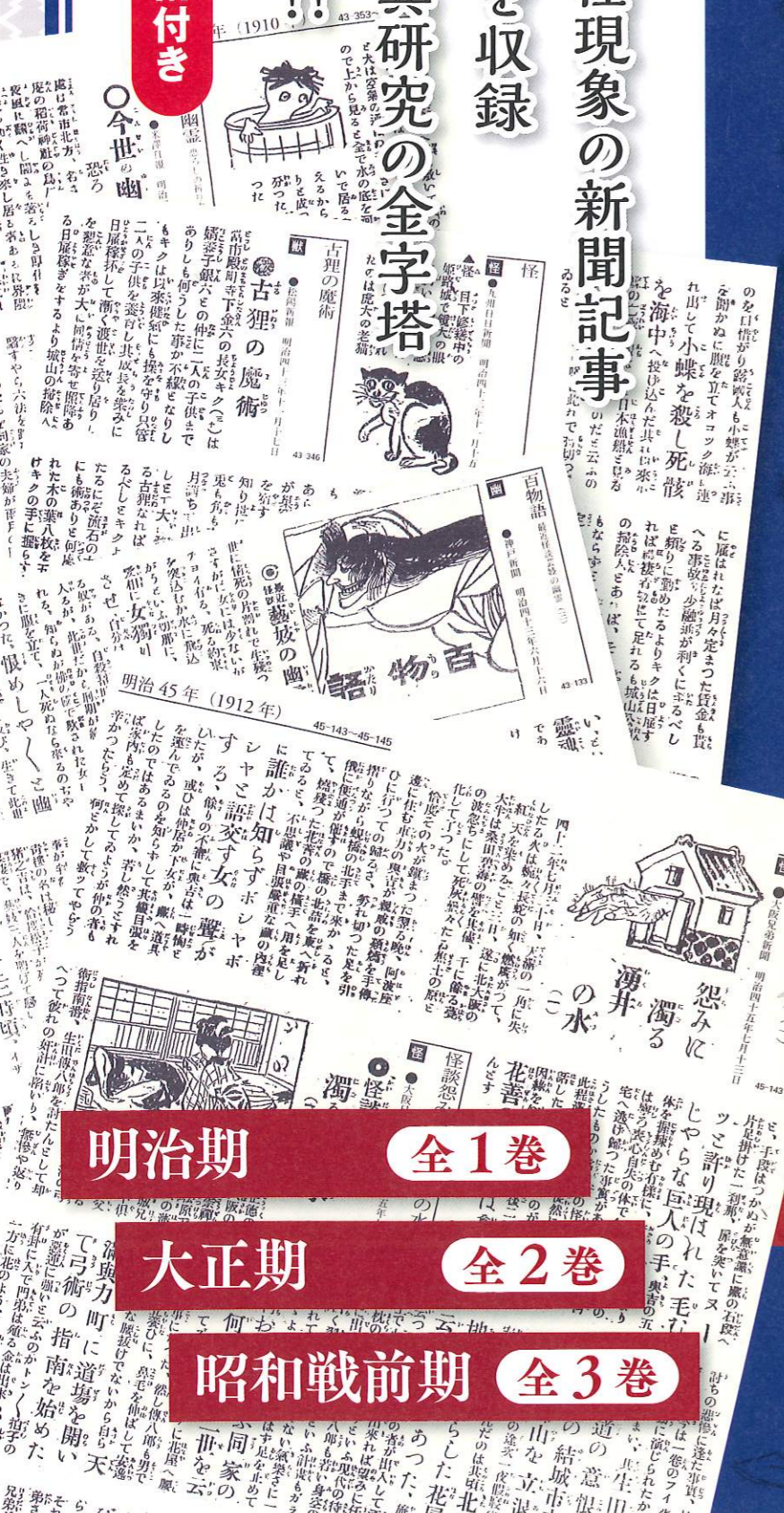
湯本豪一 編

全6巻

国書刊行会

妖怪・幽霊・怪現象の新聞記事
 約1万5千件を収録
 総8千頁、怪異研究の金字塔
 遂に完結なる!!

総索引CD-ROM付き



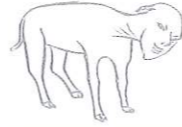
明治期 全1巻

大正期 全2巻

昭和戦前期 全3巻



本書をお薦めしたいのは



古くからの民間伝承が、さまざまに形を変えながら日本人の生活に息づき、色々な事件として多数記事化されている。

民俗学および
歴史・風俗研究者

新聞という当時の最新メディアによって、怪異・妖怪事件が定型化され、普及していく様子が如実に見て取れる。

社会学研究者

都市怪談、幻想文学、ホラー文学の原型ともいえる記事多数。現代まで語り継がれる話の数々が生起する様が、時間の流れのなかで見て取れる。

日本文学研究者

本文見本

を乞ひて網に捲付
け漸く引上げ見る
ど全長約九尺肩に
は頑丈なる鱗あり
て脊は黒く腹部の
色は銀盤の如くに
して黒き輪郭あり
淡紅色の斑點を有
せり圖に示せる如
く背部に八條の黒線あり線の部分は非常に
坑けれど他の部分は双物にて切断せられ得
べく口は鰓に似て三角形の齒三本を有せる
物にて誰あつて名を知る者なく何れも奇異
なる動物として評判となりなりと思ふに
泥鰌の變形したるものにあらざる歟



稀有なる海中の動物

●北海タイムズ 明治三十七年十二月二日

●稀有なる海中の動物 去る廿二日長崎
縣北松浦郡黒島村字青の浦沖合に於て同村
漁師の捕へたる甚だ異形の動物あり青の浦の漁
師吉澤彦四郎の漁船外一隻が碇を距る七里許
の沖合に於て網を掛け居るに前面近く巨大
の動物浮びしより必定鯨なるべしと勢よく漕
寄りて船を打ちたるに怪物は馬の如き聲を發
して船を引き行く力甚だ強く迎も手に合はざるよ
り船の助力を乞ひて
網に捲附け漸く引上げ
たるが全長約九尺肩に
は頑丈なる鱗ありて背
は黒く腹部の色は銀盤
の如くにして黒き輪廓
ある淡紅色の斑點を有
せり圖に示せる如
く背部に八條の黒線あり



編者紹介

湯本豪一（ゆもと・こういち）
民俗学者。風俗史家。元川崎市市民ミュー
ジウム学芸室長。

その3000点に及び日本随一の妖怪コ
レクションは、広島県三次市に寄贈され、
2018年に《湯本豪一記念日本妖怪博
物館（三次ものけミュージアム）》と
して公開が予定されている。

主要編著書

『近代造幣事始め』駿河台出版、『図説明治事
物起源事典』柏書房、『明治妖怪新聞』柏書房、
『妖怪あつめ』角川書店、『妖怪と楽しく遊ぶ
本』河出書房新社、『江戸の妖怪絵巻』光文
社新書、『妖怪百物語絵巻』国書刊行会、『日
本幻獣図説』河出書房新社、『百鬼夜行絵巻』
小学館、『続・妖怪図巻』国書刊行会、『図説
江戸東京怪異百物語』河出書房新社、『図説・
円と日本経済』国書刊行会、『風刺漫画で日
本近代史がわかる本』草思社、『日本の幻獣
図譜』東京美術、『今昔妖怪大鑑 湯本豪一コ
レクション』パイインターナショナル

総索引 CD-ROM付

最終巻「昭和戦前期(下)」には、全
巻の総索引CD-ROMが付いて
います。
このCD-ROMは、各巻の「掲載
記事内容一覧」をPDFで収録し
ています。

全6巻の1万5千件にのぼる膨
大な記事の中から、〈河童〉〈人魚〉
〈天狗〉〈狸〉〈怪談〉〈幽霊〉〈化物屋
敷〉〈信濃毎日(新聞)〉〈九州日報〉
などなど、さまざまなキーワード
の自由自在な検索が可能です。



掲載記事内容一覧 (65%)

* 掲載記事内容一覧

番号	タイトル	記事内容	発行日	掲載紙
明治5年				
5-1	「夢現に旅」	狐狸に誰かされて、夢現に遠出	4/5	東京日日
5-2	「狸乱行」	悪戯が過ぎる狸のために禿翁を建てた	4/10	東京日日
5-3	「夢のお告げ」	川底の地蔵が夢に現れて、助けを求める	5/3	横浜毎日
5-4	「洞窟のお告げ」	洞窟に書があり、老人がお告げを聞く	5/23	横浜毎日
5-5	「猫の子を産む」	猫、狐の子を産む	5/28	東京日日
5-6	「上半身獣、下半身魚」	上半身獣、下半身魚の怪獣現れる	7/6	東京日日
5-7	「忽然と社土現る」	空中に社土が忽然と。狐狸の仕業?	11/7	郵便報知
明治6年				
6-1	怪物を獲たる説	手足の生えた魚。穿山甲だった	6/25	東京日日
6-2	狸の怪異	酒のつまみやくすね、そのお札を持ってくる狸	7/9	東京日日
6-3	老狸を捕うる件	大入道を探してみたらその正体は老狸だった	8/7	東京日日
6-4	「老狸」	捕えてみれば狸だった	8/12	郵便報知
6-5	狸の怪異	化物屋敷は狸の仕業らしい	8/27	東京日日
6-6	「化物屋敷」	老狸の幽霊が出る屋敷は空家	11/7	東京日日
6-7	「幽霊屋敷」	死んだ妻の幽霊が屋敷につく	11/30	郵便報知
6-8	「謎の怪現象」	七不思議というものには必ず根拠がある	11/30	郵便報知
6-9	「狐狸の怪などない」	狐狸の迷信を否定	12/3	郵便報知
明治7年				
7-1	「狐に憑かれる」	狐に憑かれて、怪しいことを噂	1/25	郵便報知
7-2	「狐の復讐」	妖怪中の母狐を殺し、父狐に復讐される	3/14	郵便報知
7-3	「異形の骨」	鴻島天神の近くの屋敷で骨が出る	4/17	横浜毎日
7-4	「呪いの刀」	呪いの刀で妻を斬り殺す	5/2	横浜毎日
7-5	「鯉魚」	鯉魚、漁船乗組員を喰う	5/25	東京日日
7-6	「石降が降る」	石が度々降ってきて、瓦が壊れるほど	7/18	東京日日
7-7	「老狸が亡き供に化ける」	狸で不明の孫が死亡。孫の声似った老狸を捕える	8/5	郵便報知
7-8	「神木が血を流す」	汁物屋が神木を切つて、神怪殺害に	8/5	郵便報知
7-9	「父の霊柩?」	戻ってきた亡父は狸が化けたものだった	8/23	郵便報知
7-10	「墓の覆した土塊」	つがいの墓が崩落した後に墓をくくりの土塊	10/12	新聞雑誌
7-11	「戦死した義弟の霊が帰る」	戦死した義弟が幽霊になって帰つたと挨拶	11/14	東京日日
7-12	「読書を除く狸?」	教科書を首読する生徒に声を合わせる動物な狸	11/22	朝野
7-13	「半狼半猫」	猫と狼が混じりあったような珍獣を捕獲。博覧会へ	11/22	朝野
7-14	「半狼半猫」	顔は猫、体は狼に似た怪獣	11/24	読売
7-15	「乳飲ませ幽霊」	幼い子供を遺して死んだ母が不実な夫を怨み出る	12/6	郵便報知
7-16	「怪火に降石に」	怪火で家の物がよく焼ける家には石も降る	12/12	東京日日
明治8年				
8-1	「大蛇」	駒が醬油樽ほどもある大蛇に追いかける	1/14	読売
8-2	「狸が男に化けて来る?」	狸が女性の下へ男に化けて通っている?	1/17	東京日日
8-3	「巨大な鯉」	大鯉に小児が攫われそうになる	1/26	東京日日
8-4	「蛇が嵐を起す」	蛇が嵐から黒雲を。大雨は数時間止む	1/28	あけぼの
8-5	「円朝の怪談会」	三遊亭円朝の怪談会は客常も魅惑的?	2/15	朝野
8-6	「夫婦の幽霊」	妻を亡くした夫も病死、夫婦で化けて出る	2/16	東京日日
8-7	「幽霊が菓子を買に来る」	生きてまゝ埋葬された赤子のために幽霊が尽力	2/20	東京日日
8-8	「石が降る」	金物屋の裏の空地に続け降る石が降る	3/6	東京日日
8-9	「前約? 海馬?」	頭は豹、脚は龍。アザラシのことか?	3/9	郵便報知
8-10	「コン」と鳴いて自殺	狐を苛めた男が狐憑きになって自殺	3/12	東京日日
8-11	「幽霊の正体は猫」	幽霊の幽霊の正体は、大猫だった	3/13	あけぼの
8-12	「老狐美女に化ける」	夜中に訪ねてきた美女は老狐だった	3/19	東京日日
8-13	「移動を拒む老樹」	移植を拒むように大人数でも動かない老樹	3/20	あけぼの
8-14	「踊る二老狐を捕える」	狐が白昼から踊っている	3/30	郵便報知
8-15	「阿部晴明狐が憑く?」	お狐様が憑いたことをいいことに好き放題する女	4/6	東京日日
8-16	「野狐飼犬を魅せし話」	狐と飼犬が能を取り合う	4/20	横浜毎日
8-17	「金足羅様が悪く」	金足羅様が鏡に憑いて、ご家託を下す	4/22	東京日日
8-18	「狸に化けた詐欺」	私は狸、子狸を食ってくれ、という女詐欺	4/26	読売
8-19	「雲火」	医者が夜道で鬼火を目撃	5/3	東京日日
8-20	「異骨」	両腕の怪獣の骨が用水路より出る	5/8	東京日日
8-21	「妖怪黒坊主」	毎夜、女房のもとに黒坊主が通ってくる	5/9	郵便報知
8-22	「狸の引越し」	文明の世に前えかたて、狸穴から引越し	5/13	あけぼの

